

大阪府視聴覚ライブラリー教材(平和教育) VHS/DVD

大阪府視聴覚ライブラリー所蔵の教材の例として、ここでは「平和教育」に関する主な教材を紹介しています。

(令和3年3月現在)

No	タイトル・サブタイトル	内容	制作年	時間(分)	字幕	種別
1	アゲハがとんだー 1945・3・10 東京大空襲ー	東京の下町に住む国民学校 6 年生の主人公は空襲を避けるため同級生たちと山間部に学童疎開していたが、卒業が近づき、東京へ戻ることになる。そんな中、東京が大空襲に見舞われる。この作品は、昭和 20 年(1945 年)3 月 10 日の東京大空襲をテーマに、悲惨な体験をする子どもたちの姿を描き、戦争の悲惨さと平和の大切さを訴えかけるアニメーションである。作品の途中には、学童疎開の様子や軍楽隊の行進、燈火管制の状況、焼夷弾の説明など、教材としての要素もふんだんに盛り込まれている。	2019 年度 令和 1 年	20	あり	DVD
2	涙に浮かぶ記憶 戦争を次世代へ伝えて	第 34 回全国中学生人権作文コンテスト法務大臣賞「戦争を次世代へ伝えて」を映画化し、戦争への拡大の足跡を資料映像でたどっていくことで、悲惨な戦場について想像し、戦争とは何か、平和とは何かを考えさせる作品。	2017 年度 平成 29 年	28	あり	DVD
3	アニメ ひめゆり	アメリカ軍が沖縄に攻め込んできて、日本軍の病院に動員されたひめゆり学園の生徒たちは、暗く狭い壕の中で、ケガをした兵隊の世話に追われました。やがてアメリカ軍が迫り、解散命令が下されます。アメリカ軍の激しい猛攻撃の中で、壕を出た生徒たちは、次々と亡くなっていきました。戦争のこと、ひめゆり学徒隊のことを、子どもたちに伝えるアニメ作品です。〔英語字幕付き 日本語字幕なし〕	2012 年度 平成 24 年	30	あり	DVD
4	銀の鈴 ～対馬丸よ り、今を生きている君 たちへ～	昭和19年8月、沖縄からの疎開船対馬丸が撃沈され、千数百人が海中に沈んだ。生き残った人たちのその後の暮らしや当時の沖縄の様子をえがき、戦争の悲惨さと平和の尊さを伝える作品。	2009 年度 平成 21 年	81		DVD
5	明日への伝言 語り つぐ 炎の記憶	日本の各地域を襲った戦災・空襲を記録したビデオ「明日への伝言」。戦争の悲惨な記憶が風化しつつある現在、青森・高松・富山・神戸・東京の空襲を体験した人たちが語り部となって戦争の愚かさや空襲の恐ろしさを若い世代に語り継ぐ姿をとおして、平和の尊さについて考えるきっかけとなることを願った作品。	2008 年度 平成 20 年	30		ビデオ テープ
6	明日への伝言 イタン キ浜の夏 ～室蘭 艦砲射撃の爪痕～	1945年 7月15日 9時36分、室蘭沖28キロ。アメリカ第3艦隊の艦砲が一斉に火を噴いた。わずか1時間のうちに、街は破壊され、人々のきずなは 一瞬のうちに吹き飛ばされました…。2006年 61年目の夏、紙芝居をもった人たちが小学校を訪れ戦災の記憶を平和の祈りとしてつたえる。	2007 年度 平成 19 年	25		ビデオ テープ
7	照子 オーストラリ アからやって来たヒロ シマの語り部	57 年ぶりに広島に帰り、原爆ドームで祈る。「わたしが子どもだったころ 私の国は戦っていた。そして私は空が怖かった」爆心地から1.5Km の自宅で被爆。ピカドンでは言い表せない閃光と熱風、屋根は吹っ飛び… 広島平和記念資料館で語る。「ひとりひとりが愛する人を持っているはず、平和がなくなると、どんなに大事な人もころされてしまう。この作品は未来に生きる子どもたちに”命の尊さ”と”重さ”を、また、生きている大人たちに忘れず後世に伝えなければならないメッセージを語りかけている。	2007 年度 平成 19 年	58		ビデオ テープ

8	明日への伝言 祈り かさねて 神戸60年 目の記憶	「空襲というんは 何も残してくれませんか」「この地球から争いごとがなくなるように」大輪田橋が80年の間神戸の歴史を見つめていた。神戸空襲を記録する会の活動を中心に3月17日・6月5日の空襲をこどもたちに語る。	2004 年度 平成 16 年	30		ビデオ テープ
9	明日への伝言 ～ほ むら色の空～	ほむら色とは、赤とオレンジ色を重ねた炎の色のことです。1945年8月2日未明の富山市内の空襲を忘れないために、毎年8月1日の夜、神通川河川敷で花火大会が開催されています。母親に背負われて逃げる途中、焼夷弾をうけて母を亡くした当時3歳の前野さんは、その時のことを語り継ぐために、体験を絵本にし、語り部として活動しています。	2004 年度 平成 16 年	25		ビデオ テープ
10	明日への伝言 私 たちの町にも空襲が あった	昭和20年7月10日、死者1000人以上を出した仙台空襲で、自分の家族全員を失いながらも、力強く生きてきた横尾さん。「泣いてばかり、悲しんでばかりいてはダメだ。これは死んでのと同じだ。それじゃ申し訳ないよ 死んだ坊やや夫に！」空襲の体験をもとに、若い世代に「戦争の悲惨さ」を語ります。	2002 年度 平成 14 年	26		ビデオ テープ
11	明日への伝言 語り つぐもの	今から50数年前の日本本土空襲の“出来事”を15歳の少女が、岐阜市、東京都、川崎市にその関係者を訪ね、思いを聞き取った。戦災の記憶を平和への祈りとして明日へ伝える内容となっている。	2001 年度 平成 13 年	26		ビデオ テープ
12	明日への伝言 Smile Again	55年前の6月29日、僕たちのまち岡山では、多くのものが失われた1日だった。岡山の小学生が、空襲の被害にあった町を調べ、平和の尊さと戦災の記憶を後生へ伝えることの大切さを学ぶ。	2000 年度 平成 12 年	30		ビデオ テープ
13	明日への伝言 小さ な赤いマト	小さな赤いマトを井戸に冷やしたまま B-29 の爆弾により死んだ少女がいる…。戦争体験のない世代に対して戦争の悲惨さや愚かさ、平和の尊さを再認識させる作品。	1999 年度 平成 11 年	25		ビデオ テープ
14	テレビの小さな画家 たち 一万五千人 のアンネフランク	第2次世界大戦中、チェコ・プラハ郊外につくられたユダヤ人の強制収容所のガス室に消えた15,000人の幼い子どもたちが残した4,000枚の絵をとおして平和や人間の尊厳について考える作品。	1999 年度 平成 11 年	50		ビデオ テープ
15	はとよひろしまの空を	広島原爆でかわいがってくれた少年を亡くした小鳩のミチルが焼け野原を必死で生き抜こうとする姿とおし、命や平和の意味を考える作品。	1999 年度 平成 11 年	21		ビデオ テープ
16	明日への伝言 私た ちは戦争を知らない	熊本県のある小学校では、村の戦争についてお年寄りから聞いた話をホームページで紹介している。また熊本県の高等学校では、太平洋戦争の最中に開校となった全身の女子商業学校の歴史を紹介している。戦争を風化させないように本当に平和を願う人々の声を紹介する。	1998 年度 平成 10 年	21		ビデオ テープ
17	5分間で見る世界の 女性 PART1 アジ ア	21カ国の女性プロデューサーが第4回世界女性会議の主題である「開発・平等・平和」をテーマに各国のホットな女性問題を5分間で描いた作品である。世界で初の、女性による、女性のための、女性問題をテーマにした映像メディアの作品である。PART1 アジア(インド・カンボジア・日本・台湾・フィリピン・スリランカ)	1998 年度 平成 10 年	32		ビデオ テープ
18	5分間で見る世界の 女性 PART2 北米・ 南米	21カ国の女性プロデューサーが第4回世界女性会議の主題である「開発・平等・平和」をテーマに各国のホットな女性問題を5分間で描いた作品である。世界で初の、女性による、女性のための、女性問題をテーマにした映像メディアの作品である。PART2 北米・南米(ペルー・カナダ・アメリカ合衆国・コロンビア)	1998 年度 平成 10 年	22		ビデオ テープ

19	5分間で見る世界の女性 PART3 ヨーロッパ	21カ国の女性プロデューサーが第4回世界女性会議の主題である「開発・平等・平和」をテーマに各国のホットな女性問題を5分間で描いた作品である。世界で初の、女性による、女性のための、女性問題をテーマにした映像メディアの作品である。PART3 ヨーロッパ(オランダ・ギリシャ・ドイツ・ウクライナ・フィンランド・スコットランド)	1998年度 平成10年	35		ビデオテープ
20	5分間で見る世界の女性 PART4 アフリカ・オセアニア	21カ国の女性プロデューサーが第4回世界女性会議の主題である「開発・平等・平和」をテーマに各国のホットな女性問題を5分間で描いた作品である。世界で初の、女性による、女性のための、女性問題をテーマにした映像メディアの作品である。PART4 アフリカ・オセアニア(ニュージーランド・ザンビア・クック諸島・ウガンダ・カメルーン)	1998年度 平成10年	22		ビデオテープ
21	世界は友だち ー国際社会で活躍する日本人ー	「人道・難民給救」「政府開発援助」「国際連合」「平和協力」「世界経済への協力」などの各分野で国際的に活躍している日本人を紹介し、わが国の国際協力や支援に関する今後の課題を示している。	1997年度 平成9年	26		ビデオテープ
22	炎の証言 ～打ち続いた空襲～	第二次世界大戦末期における空襲等のありさまやそれに伴う惨状を、室蘭市、北九州市、富山市など大都市や地方重要都市の体験者の証言を収録している。戦争の悲惨さ、平和の尊さを改めて認識するためのビデオである。	1997年度 平成9年	30		ビデオテープ
23	炎の証言 ー鎮魂の祈りー	太平洋戦争が終わってから、半世紀が過ぎ去ったが、肉親を無くした人たちの無念と心痛は残っている。戦災体験者が鎮魂の祈りを捧げる思いで語った貴重な証言を収めたものである。	1997年度 平成9年	30		ビデオテープ
24	総力戦という戦い ー第一次世界大戦ー	第一次世界大戦を題材に、はじめて行われた世界規模の戦いにおける各国の国民が、どのように戦争に参加し、支援していったかを解説した作品である。	1996年度 平成8年	22		ビデオテープ
25	炎の証言 ～最後の空襲～	先の大戦における日本本土の空襲等の状況やそれに伴う被害の状況を戦災体験者の証言を交えるなどして、戦争体験のない世代に対して戦争の悲惨さや愚かさ、平和の尊さを再認識して頂くために作成したもの。	1996年度 平成8年	30		ビデオテープ
26	レクイエム・50 北千島最北端・占守島の戦後	第2次世界大戦終戦3日後、突如ソ連軍の攻撃が開始され、北千島最北端の島・占守島の守備についていた多数の日本兵が戦死した。それから50年、厚生省主催による日本兵の遺骨収集と慰霊巡拝がようやくのことで実現し、遺族や関係者が現地を訪れることができた。この作品は、そのときの記録である。	1996年度 平成8年	97		ビデオテープ
27	おばあちゃんの戦争	戦後50年、戦争を知らない孫たちに向けて、おばあちゃんたちが自分史というかたちで戦争体験をまとめました。空襲、疎開、家族や恋人との別れなどをとおして戦争の悲惨さを訴えます。(「現代を生きる」シリーズ)	1995年度 平成7年	30		ビデオテープ
28	炎の証言 ～戦争と女性たち～	300万人を越える犠牲者を出した太平洋戦争。父、夫、息子を戦場に送り出し、女性たちはどのように生きたのか。多くの血と涙を流し、苦渋と嗚咽の連続の中で生きた女性の歴史の断片である。	1995年度 平成7年	25		ビデオテープ
29	ほんのちょっと変えてみよう 難民問題	世界各地の難民の子どもたちの平和を願う訴えをまとめたものです。	1995年度 平成7年	15		ビデオテープ
30	呼びかけよう、平和を！ ー戦争を語りつぐ人たちー	多くの命が奪われたあの戦争から50年。二度と戦争を繰り返さないようにと、戦争の悲惨さを語り継いでいる人たちがいます。彼らの活動をとおして平和の大切さを考えます。(「現代を生きる」シリーズ)	1995年度 平成7年	30		ビデオテープ

31	炎の証言 ～戦争と子どもたち～	戦争は子供たちをも巻き込んでいった。空襲で死んだ子どもたち、戦場で死んだ少年兵、学童疎開、勤労動員先の子どもたち、焼け跡の孤児たち。戦争の時代を体験した子どもたちの証言を記録したものである。	1994 年度 平成 6 年	25		ビデオ テープ
32	炎の証言 ～これが空襲だった～	太平洋戦争における空襲の状況、被害の状況を戦災体験者の証言を交えながらふりかえり、戦争の悲惨さ、平和の尊さについて考える。	1993 年度 平成 5 年	21		ビデオ テープ
33	消えさらぬ傷あと 火の海・大阪	大阪大空襲によって多くの尊い命が奪われていった過程を、戦争体験者の声と実話をまじえながら、戦争の悲惨さと平和の尊さを描いている作品。	1992 年度 平成 4 年	20	あり	DVD
34	母校が大空襲にあった日	大阪大空襲で多くの学校が焼けた。当時の体験談や記録をとおして戦争と平和を考える。（「現代を生きる」シリーズ）	1992 年度 平成 4 年	30		ビデオ テープ
35	お母さんの声が聞こえる ー平和な明日へー	昭和 20 年 3 月の大空襲で、子供や親きょうだいを失うなど悲惨な体験を味わった人々の声を、当時の状況をとらえた資料や、残されている遺物をもとに、戦争のもつ悲惨さを訴えるとともに、平和を守ることの大切さを深く考えさせている。	1991 年度 平成 3 年	31		ビデオ テープ
36	私たちの異文化交流	21 世紀を迎え、平和な世界を築くために庶民レベルでの異文化交流の大切さを考える。（「現代を生きる」シリーズ）	1991 年度 平成 3 年	30		ビデオ テープ
37	せんすい艦に恋をしたクジラの話	野坂昭如原作「戦争童話集」を素材に映画化したもので、恋人に恵まれない一頭の雄のクジラが、潜水艦を雄のクジラと思いそばを離れなかったために命を失うという物語を、アニメーションで描いている。	1990 年度 平成 2 年	15		ビデオ テープ
38	おかあちゃんごめんね	昭和 20 年 7 月 10 日は、大阪の堺市民にとっては二度と忘れることができない日となった。アメリカ軍の空襲によって、この日約 3 千人の死傷者がで、多くの家族が焼け出された。この映画は、「絹ちゃん」という少女とその家族の悲劇を描いた人形アニメである。	1985 年度 昭和 60 年	26		ビデオ テープ
39	おこりじぞう	昭和 20 年、広島に空襲で原子爆弾が落とされ、約 14 万の人々が死に、町はあとかたもなく焼け野原となった。数年後、広島のある横町におこりじぞうと呼ばれるこわい顔のおじぞうさんが立っていた。映画は山口勇子さんがかいた話をもとにした人形アニメである。	1985 年度 昭和 60 年	27		ビデオ テープ
40	一つの花	昭和 19 年の夏、日本は太平洋戦争中の真只中、食べ物も不足していた。幼いゆみ子が最初に覚えた言葉は「一つだけちょうだい」—いつもおなかをすかして「もっと、もっと」とねだるゆみ子に「じゃあね、一つだけ」といつて分けてくれるお母さんの言葉だった。食糧難による飢餓感と戦争の悲しさを描いた作品。		23		DVD
41	一つの花	昭和 19 年の夏、日本は太平洋戦争中の真只中、食べ物も不足していた。幼いゆみ子が最初に覚えた言葉は「一つだけちょうだい」—いつもおなかをすかして「もっと、もっと」とねだるゆみ子に「じゃあね、一つだけ」といつて分けてくれるお母さんの言葉だった。食糧難による飢餓感と戦争の悲しさを描いた作品。		23	あり	DVD